

特別支援教育部会

令和7年度 11月例会報告



ブロック名	月例会	参加人数	会場
A1 ブロック	11月	48 人	千葉市内小学校
<p>1 本日の流れ</p> <p>2 実践報告 (ICT 活用)</p> <p>実践①算数科「折れ線グラフと棒グラフ」</p> <p>身近なことやアンケートを基に題材にして、一斉授業を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> 折れ線グラフ…身長の変化 (1年生から現在までの身長の表を見る。) <ul style="list-style-type: none"> 手立て：定規の使い方、補助線、答えを導くことができるワークシート 棒グラフ…くだものの数 <ul style="list-style-type: none"> 手立て：色ブロックで並べてから方眼紙に棒グラフで表す。 <ul style="list-style-type: none"> 答えを導くことができるワークシート <p>実践②「特別支援学級の授業作り」</p> <p>単元のタイプ…教科書、生活、ゲーム</p> <p>学習形態…個別、グループ、集団、交流</p> <p>ICT活用メリット 苦手を克服するための手立てとして有効</p> <p>教科書に付いている QR コードが何度も見ることができてわかりやすい</p> <p>発表ノート…全国の先生が作っている発表ノートを活用することができる</p> <p>音読やリコーダー練習など児童が自分で動画に撮ったものを発表ノートで提出することで児童が意欲的に取り組んでいた。</p> <p>実践③算数科「ICTを活用した自由進度学習」</p> <ul style="list-style-type: none"> 学級での学習の様子 実物を用いての活動報告 図形の学習では、時間内自由進度学習を取り入れている。 <ul style="list-style-type: none"> 小学校1年生相当「かたちづくり」 小学校4年生相当「直方体と立方体」 授業は「一斉指導 (導入・まとめ)」と「個別進度 (ミッション活動)」の組み合わせで構成→児童がそれぞれの場を選んで自分で移動しながら学習をしていく。 <ul style="list-style-type: none"> デジタルコンテンツを活用することで、実物操作に比べて瞬時にリセットできるため試行錯誤の回数が劇的に増加した。 <p>実践④自立活動「自立活動における実態把握からの授業づくり」</p> <ul style="list-style-type: none"> 自立活動チェックシートの活用→実態把握 授業作りの方法 授業の様子 動画視聴 <p>3 連絡</p>			

ブロック名	月例会	参加人数	会場
A2ブロック	11月	25人	市内高等特別支援学校
Dブロック	11月	16人	同上

※A2ブロックとDブロックが合同で研修を実施しました。

「千葉市内高等特別支援学校の見学と講話」

1 学校概要説明

- ・学校生活や学習、行事の様子を写真で見る。

2 作業学習の見学

- ・6つの作業班があり、それぞれ物づくりやサービスの提供に関わる活動に分かれている。
- ・食品加工班は、食品加工とマリンカフェの運営をしている。
- ・農園芸班は、花や野菜の栽培、校内外の花壇の管理も行っている。
- ・事務サービス班は、軽作業やPCを使った名刺やポスター、資料の作成など活動内容が幅広い。
- ・文化祭の運営、各作業班が作成した商品の販売も行っている。

3 学校の教育課程・制度・卒業後についての説明

- ・療育手帳を取得している生徒が受験対象となる。
- ・学校生活は、どの活動も就労につながる内容になっている。
- ・教科学習の内容は、日常生活につながる課題にしている。
- ・現場実習を通して、就労先が決まる。
- ・卒業後の進路状況は、企業に就職・福祉サービスの利用など多岐にわたる。

4 小・中学校の先生方に伝えたいこと

- ・高等特別支援学校は、卒業したら就労できる、というわけではない。また、高校卒業の資格は取得できない。
- ・生徒は企業の障害者枠を利用して就職することになる。
- ・小中学校の時代に大切なことは、基本的な生活習慣を身に付けること、規範意識、家の手伝いをたくさんすること、できないことや失敗を認めて謝罪できることである。

5 質疑応答

- ・卒業後グループホームを利用する生徒はいるか。⇒いる。
- ・就労の雇用形態はどのようになっているか。⇒正社員、契約社員などである。
- ・保護者に望むことは何か。⇒就労には、企業の意向を汲めること。
また、打合せや契約などその都度協力が必要。
- ・作業班の決定方法について。⇒1年次に2つの班、2年次前期に1つの班を経験する。
2年後期からは、経験した3つの班から選ぶ。
- ・教員の指導における専門性の付け方について。⇒職員研修を通して、技能を学ぶ。

6 次回の案内

- ・1月例会
1月20日（火） 県教研の報告と1年間の活動の振り返り

ブロック名	月例会	参加人数	会場
Bブロック	11月	28人	福祉サービス事業所

福祉サービス事業所 講師 所長 様

1 施設見学

2 説明会

- ① 講師自己紹介
- ② 法人の概要
- ③ 福祉サービス事業所の概要
- ④ 障害福祉の歴史について
- ⑤ 障害福祉サービスについて
- ⑥ サービス利用の流れについて
- ⑦ 高等部卒業後の進路について
- ⑧ 相談支援について
- ⑨ 質疑応答

3 謝辞

4 諸連絡

- ・ 1月例会アンケート実施のお願い

ブロック名	月例会	参加人数	会場
Cブロック	11月	30人	養護教育センター

講師を迎えて事例検討（講師：こども病院 言語聴覚士）

○粘膜下口蓋裂がある。卒業を踏まえた発音指導について。

- ・ことばの教室、千葉県こども病院とで連携をとっている。
- ・会話の中でも発音が良くなってきているが、力が入りすぎているので、リラックスしながら柔らかい発音を目指していく。

○発音できない音が多く、このままの指導でよいか。

- ・自分の発音を聞き、[カ]の発音を出そうとしているので、このままの指導で良いと思う。
- ・目で見ても真似ることが得意なので、鏡を見ながら舌の使い方を練習していく。

○イ列音、サ行音の歪み。卒業を踏まえた発音指導について。

- ・6年生で卒業が近いので、1番明瞭度が上がる音にフォーカスして指導していくと良いのでは。
- ・早口なので、相手に伝わりやすい話し方を伝える。
- ・卒業後の支援として、言語聴覚士がいる放課後等デイサービスや訪問看護、児童相談所があることを伝える。

○側音化構音で、奥舌の中央部が盛り上がる。

- ・舌が細いので、舌運動訓練をしてはどうか。
- ・家でも練習を続けるともっと上手になっていくと思う。

事前アンケートから頂いた質問の回答

○ [キ] [シ] の指導方法について

- ・どのように発音が誤っているかで訓練方法が変わる。構音検査を行い、評価して、指導計画を立てる。

○医療機関との連携について

- ・口唇口蓋裂や難聴のお子さんには主治医がいる。おそらく言語聴覚士も関わっているので、みんなでスキルアップしていきたい。

○鼻咽腔構音や声門破裂音、咽頭破裂音などについて

- ・動画で鼻咽腔構音を紹介。
- ・開鼻声、呼気微漏出による子音の歪み、鼻漏れの場合は、鼻咽腔閉鎖機能に異常がないか考えてみるとよい。

○歯間化構音のゴールをどうすればよいか。

- ・器質的な問題がなければ、正しい構音位置での発音を目指す。
- ・器質的な形成の異常があれば、場合によっては歯間化がゴールになることもある。

1月例会 オンライン

小グループで今年度の成果、課題等を報告

特別支援教育部会

令和7年度 10月例会報告



ブロック名	月例会	参加人数	会場
A-2ブロック	10月	48人	千葉市内小学校
1 はじめの言葉			
2 授業実践			
教 科 自立活動			
単元名 「伝えよう、ぼく・わたしのきもち」～交流及び共同学習の場面を通して～			
3 協議会			
・講師の先生紹介			
・授業者から			
・グループ協議			
○1グループ ハンドサインは ASD やコミュニケーションが苦手な児童には有効だった。			
○2グループ 言葉・表情・サインが分かりやすい。新しくでたサインや言葉を追加していくといいのではないか。			
○3グループ 実態がよくとれていた。ネガティブなサインもあればよいが、結果的に終始ポジティブだったので必要がないのかもしれない。			
4 講師の先生から			
・自立活動は基本的に個人			
・大人数と少人数どちらが適しているかは個人差がある。			
・一対一、小集団（グループ）、大集団（学級全体）と増やしていく。			

ブロック名	月例会	参加人数	会場
Bブロック	10月	24人	千葉市内中学校

授業研究

教科：自立活動「気持ちをつたえよう ～こんなとき、どうする?～」

会場：千葉市内中学校

1 授業参観

2 協議会

① 授業者から

② グループ協議

- ・授業参観を経て、感想等
- ・自立活動の授業実践等
- ・各校の困り感等

③ 講評

講師：千葉市内小学校 校長

- ・指導案の表記について
使役表現「～せる」「～させる」は用いない。
- ・自立活動の起源
- ・「代替案」を提示することの大切さ
言動に対して「だめ」と一喝するのではなく、コミュニケーションの選択肢を増やせるように。
- ・学習環境の整備・使用教室の設定の仕方
今回使用した教室は、隣との間隔が少し広く、話し合い活動に適していた。
- ・視覚情報を増やし、理解を深める手立てをとることの大切さ
情報を得るのは、視覚80% 言語16%

3 連絡

- ・批評箋回収

ブロック名	例会	参加人数	会場
Cブロック	10月	40人	千葉市内小学校

1 授業展開（同室、隣室マジックミラー越し・音声モニター付き、別室モニター視聴）
「ラッキーダイス」（基本ポジション単音節 [イ]）～「やった！」「できた！」が実感できる個に応じた指導
（自己評価を通して）～

2 協議会

（授業者より）

感想：小学1年9月から入級。1年生から担当している。いつも通りの児童の様子。

- ①基本ポジション [イ] 弁別方法：今まで舌出し [イ] の練習をしてきた。舌の形を確認しながら練習してきた。自然と舌の平らが保てるようになってきた。今日より基本ポジション [イ] の練習を始めたことにより、音のみの弁別になった。本当にこの音で良いのか確認したい。
- ②振り返り方法：ギガタブを使うことで前時や前々時などの振り返りが表になっているので、一目でわかる良さがある。本児はよく語れる児童なのでこの振り返り方法がよくはまっているが全ての児童に当てはまるのか。先生方の感想を知りたい。
- ③振り返りタイム：練習時間の音を全て振り返るのは大変なので、復習タイムを5回にしぼった。復習タイムの時間をとるよりこの時間を練習にあてた方がよいのか？
- ④ノートの活用について：ノートを担当者が使うのが苦手とするところから、ギガタブを利用している。児童と振り返りながらギガタブを使用し、あとでノートに記入するという二度手間になっている。ノートとの併用をどうしたらよいのだろうか？本児の頑張りの共有の効果的な方法を知りたい。

（協議内容）

① [イ] の弁別について

- ・良い音のときもあるが、[イ] を長く発音した方が評価できるのでは。
- ・基本ポジションをしっかり押さえ、口形、息の出し方、前歯の隙間を2ミリほど開けると舌の様子見える。
- ・視覚的判断は難しい。鼻息鏡を使用するとよい。

②③振り返りについて

- ・担当者とは本児の解釈が一致していない。評価を具体的に示すとよい。本児が○か×かが曖昧だった。
- ・最後の5回の音の振り返りではなく、45分間授業の全体の振り返りの時間をもつとよい。
- ・たくさんの練習を頑張っていた。音の振り返りならば「今日の最高 [イ]」のポイントを押さえて言う程度でよいのではないか。
- ・評価する際、できたところ、できなかったところを言語化する。できなかったところは次につなげる。
- ・自己評価をすることは難しい。自己評価できている児童を評価することが大切。
- ・練習中の即時評価が大切。その都度評価すると復習タイムは不要。

④ノートの活用について

- ・ノートを見返すだけで、児童の様子がわかるように作成できるとよい。
- ・ギガタブにはギガタブの良さがある。それを共有したいのであれば、印刷してノートに貼るとよい。
- ・このぐらゐの書き量ならば、ワークシートの一覧でもよさそう。

11月例会 養護教育センター（第5研修室）

千葉県立こども病院 言語聴覚士によるご講義と事例検討会

ブロック名	月例会	参加人数	会場
Dブロック	10月	22人	千葉市内サポート校 放課後等デイサービス

「千葉市内サポート校と放課後等デイサービスの見学」

1 サポート校と通信制高校の説明

- ・通信制高校での単位取得のためのレポート提出や試験が大変な生徒へのサポートのために設立。高校生の半数が中退している…この生徒を救いたい。
- ・通信制高校が増えている理由
 - ① 理解がある②やりたいことに専念できる③勉強以外のことを学べる

2 クラブ活動やeスポーツ、放課後デイサービスの見学

- ・クラブ活動は曜日によって午後の活動が違う。この日はeスポーツと学習相談と音楽、制作。eスポーツは1人1端末でプレイしているが、ヘッドマイクでチームプレイをして生徒同士の繋がりが生まれている。学習相談はそれぞれが学習したい内容を持ち寄って先生に相談ができる自習室のような形。音楽は軽音など講師を招いて指導してもらっている。ベースギターを教わる生徒がいた。
- ・放課後等デイサービスは、少人数でわいわい制作活動をするところもあれば、個別で相談にのるところもあり、個別の課題に応じて、職員が手厚くサポートをしていた。

3 放課後等デイサービスの説明

- ・高校生がメイン。卒業後の自立につなげることを目的に活動している。
- ・サポート校と共に「教育と福祉」⇒先生と連携がとりやすい、通いやすい、指導を継続しやすい。
- ・学習・対人関係・卒業後の不安に対するサポートをしやすい。

4 サポート校の説明

- ・パンフレットを参考に学校の教育目標から、生徒の学校生活まで細かくご説明いただいた。
- ・高額になりがちな学費について、本サポート校独自の減額制度の説明。

5 質疑応答

- ・途中でコースを変更することはできるか。⇒できます。生徒の成長や変化に合わせて変更できる。
- ・半数が中退…卒業率は上がったか？⇒本校に在籍している生徒に関しては上がっている。
- ・発達特性のある生徒はどれくらいの割合でいるのか。⇒はっきりわかるのが3割、見立てが1割ほど。

6 次回の案内

- ・11月例会
11月18日（火）千葉市内特別支援学校の見学

特別支援教育部会

令和7年度 9月例会報告



ブロック名	月例会	参加人数	会場
A1 ブロック	9月	55 人	千葉市内特別支援学校
1 本日の流れ			
2 校長挨拶 学校紹介 合同研修会についてのお知らせ			
3 学校見学 3 グループに分かれて30分間学校見学を行った。 ・音楽室、プレイルーム、食堂、絵本の部屋、プールを中心に見学。			
4 教材教具紹介 ○教材ブース ・学校備品教材の紹介 ・自作教材の紹介 ○自立活動ブース 自立活動チェックシートの紹介と、グループ別授業の様子を動画で視聴 ・学校備品の展示 ・教材の紹介 ○音楽室 ・音楽室の楽器紹介 ・教材紹介（パネルシアターなど）			
5 諸連絡			

ブロック名	月例会	参加人数	会場
A2 ブロック	9月	34人	千葉市内小学校

1 教材教具の紹介

- ・理科室の机に並べて見学



2 10月例会の案内

- ・千葉市内小学校の先生から実践内容とご挨拶

3 アンケート入力

ブロック名	月例会	参加人数	会場
Bブロック	9月	40人	千葉市内特別支援学校

1 講話 「就労に向けた進路指導について」

講師：千葉市内特別支援学校 進路指導主事

- ・学校の概要・特色
- ・進路指導計画
- ・進路行事（職業相談、求職登録、重度判定、キャリアセンター仮登録実習）
- ・進路決定までの流れ、業種別仕事内容、進路先
- ・定着支援について
- ・長く働き続けるために

2 質疑応答

- ・志望先として検討している生徒・保護者に対する進路指導について
- ・保護者に求めること

3 連絡

- ・市教研アンケートの協力依頼

ブロック名	月例会	参加人数	会場
Cブロック	9月	33人	養護教育センター

- 1 10月提案授業について 授業者から
「ラッキーダイス」(基本ポジションでの単音節 [イ])
～ 「やった!」「できた!」が実感できる個に応じた指導(自己評価を通じて) ～
 - ・児童の様子(動画で確認)
 - ・題材、提案内容、授業の視点
 - ・現在の進捗状況、今後の進め方
 - ・質疑応答

- 2 小グループにわかれて日頃の指導の相談会 (8グループ)
 - ・それぞれのグループに分かれ、日頃の指導の困り事や校内授業研究の内容等を各自それぞれ相談した。
 - ・各グループで話し合われたことを全体共有した。

ブロック名	月例会	参加人数	会場
Dブロック	9月	24人	オンライン研修

「指導に関する悩み相談」

1 グループ協議

A グループ：SST と行動変容について

B グループ：不登校や在籍校との連携のあり方について

C グループ：生徒の実態把握や検査法について

D グループ：指導内容や教材について

2 グループごとの発表

A グループ

- ・トラブルが起こる状況を整理することや生活の振り返りを丁寧にする必要がある。
- ・本人の変容が見られているようなので、粘り強く指導を継続する。
- ・担任の先生へ対処法について、協力を求める。

B グループ

- ・不登校の理由や原因は様々。学校全体で対応を話し合う必要がある。
- ・子供を見守るという考え方が大切ではないか。

C グループ

- ・筆記やカードなどの代替策で、コミュニケーションを取る。
- ・生徒の好きな活動を準備して実施。
- ・生徒の反応が無ければ、あえて何もしない時間もある必要。
- ・ボードゲームに取り組み、一緒に楽しんで、その時間を振り返る。

D グループ

- ・事前に子供の情報を集め、授業のときに取り組みそうなものを課題とする。
- ・グループ学習では、基礎基本の学習に取り組み、個別では、個々の進度に合わせて学習する。
- ・ゲーム要素を用いて、学習が楽しいと思えるようにする。

3 次回の案内

- ・10月例会

千葉市内の通信制高校と放課後デイサービスの見学

13:45～受付 3階教室

遅刻する場合は、連絡をする。

- ・11月例会

千葉市内特別支援学校の見学。

特別支援教育部会

**令和7年度
8月例会報告**



ブロック名	月例会	参加人数	会場
特別支援教育部会	8月	181人	メープルイン幕張

『困っている子どもの背景と理解

～コグトレを使った具体的な支援』

講師：立命館大学大学院 人間科学研究科 高村 希帆 様

- 1 はじめのことば
- 2 講師入場・講師紹介
- 3 講演
- 4 お礼のことば
- 5 アンケートについて
- 6 おわりのことば

【経歴】

立命館大学大学院 人間科学研究科修了（修士）

臨床心理士・公認心理師

【主な著書】

「コグトレ実践集ー子どもの特性に合わせた導入事例」（三輪書店）

「ひらがなコグトレ」（東洋館出版社）

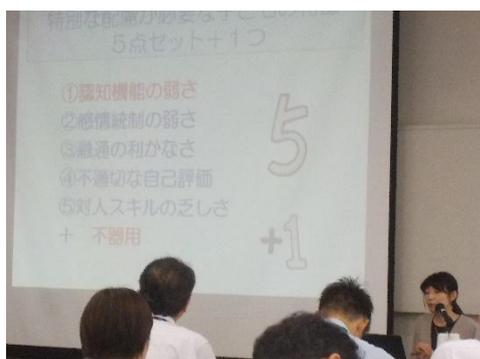
「すこしやさしいコグトレ」（三輪書店）

「1日5分で認知機能を鍛える！大人の漢字コグトレ」（東洋館出版社）

「特別支援教育の実践情報」（明治図書）など

【講義内容】

コグトレについて実践例を踏まえて実際に体験しながらのご講演だった。コグトレは、医療少年院にて精神科医の宮口幸治先生（現立命館大学教授）が、入所している子どもたちとの面接を通して得た知見に基づいて開発された、社会面や学習面、身体面の側面から子どもを支援するプログラムである。コグトレは認知ソーシャルトレーニング（COGST）、認知機能強化トレーニング（COGET）、認知作業トレーニング（COGOT）の3つのトレーニングから構成されている。認知機能の5つの能力である「記憶」「言語理解」「注意」「知覚」「判断・推論」を強化のために「覚える」・「数える」・「写す」・「見つける」・「想像する」領域からゲーム感覚で楽しみながら力を身につけることができる。講義の中で短期記憶を鍛える「何があった？」「●はどこ？」「最初とポン」や注意・集中力や処理速度を上げる「記号さがし」を体験した。体験することで、達成感や楽しさ、難しさなどを感じ、子どもの気持ちに寄り添いながら講義に参加することができた。子どもにどのような困難さがあるのかを把握し、子どもに合わせた認知機能の強化のために必要に応じてコグトレを活用することも、支援の一助となることを学んだ。



【講義の様子】



【認知作業トレーニングの実践】

特別支援教育部会

令和7年度 6月例会報告



ブロック名	月例会	参加人数	会場
A1 ブロック	6月	73人	千葉市内小学校
<p>1 授業展開</p> <p>ブロックテーマ 児童の実態に合わせた指導・支援の工夫～楽しい授業を目指して～ 体育科「跳び箱を使った運動遊び および 跳び箱運動」</p> <p>2 研究協議</p> <p>① 授業者より</p> <ul style="list-style-type: none"> ・簡単ルーレットは、いろいろな場に行かせたくて活用した。 ・発表ノートは、一人ひとりに動画を配布した。客観的にみる必要があると思った。 <p>② グループ協議</p> <p>○場の設定について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一方通行で行っていたが、サーキット形式にすることで運動量の確保ができるのではないか。 ・一方通行の良さもあるが、危険な場面があったのでルールの徹底が必要。 ・場をもう少し絞ってもよかったのではないか。 <p>○ICTの活用について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童が自らタブレットの活用ができているのは、日常の指導の成果だと感じた。 ・ルーレットにしていることで、いろいろな場を楽しみながら回ることができていてよかった。 ・動画を撮ることだけでなく、見ることも大切だと感じた。 <p>③ 講師より</p> <p>○指導案から</p> <p>良い点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童にとって魅力的なネーミング ・多彩な場（自己選択） ・グループでの学び（協働的な学び） ・めあてに向かって（自己決定） ・手本や自分の動画の活用（メタ認知） <p>改善点・疑問点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童個々の実態とめあての詳細 ・準備・片付けの負担（普段から行えるか） <p>○本時の実践から</p> <ul style="list-style-type: none"> ・様々な動きが見られたか動きが見られたか。 ・様々な支援をしていたか。 			

ブロック名	月例会	参加人数	会場
A2ブロック	6月	50人	千葉市内小学校

1 はじめの言葉

2 実践報告会・ソーシャルスキルモンスター、自分の中の弱い部分や苦手な部分をモンスターに見立てて封印する。

- ・つくしんぼうの家を参考にした工作、牛乳パックを使ったブーメランなど
- ・外国語活動アルファベットに親しむ、交流先の外国語が不安な児童に対して事前指導を行う。
- ・ドローンを活用したプログラミング活動
- ・三原色を使って絵を描く、パレットやバケツの使い方
- ・おすすめの教材の紹介、100円ショップで買える教材
- ・自立活動の紹介ねじとボルトを使った手指の運動。ヘアブラシにストローを差す運動など
- ・国語 かるたを作る 分からない言葉や、感情を表す言葉を書き込む言葉の窓など

3 アンケート入力

4 連絡

- ・ふれあいカレンダーについて（搬入日、返却日）
- ・そごう作品展について（搬入票について、返却は搬入した学校へ）
- ・8, 9月例会について

ブロック名	月例会	参加人数	会場
Bブロック	6月	44人	千葉市内高等学校
<p>1 高等学校説明</p> <ul style="list-style-type: none">・ 経営理念、学校教育目標・ 学校の特徴（コース別履修内容、登校形態）・ 校内サポート体制 <p>2 中等部説明</p> <ul style="list-style-type: none">・ 中等部の特徴・ フリースクールとしての役割 <p>3 質疑応答</p> <ul style="list-style-type: none">・ 卒業後の進路・ 年度初めに行う習熟度確認テスト後の、具体的な学習サポート内容・ 特別な配慮を要する生徒に対する具体的な支援・ 中等部（フリースクール）に通学する際、在籍学校での出席扱いについて・ 年間でかかる費用 <p>4 連絡</p> <ul style="list-style-type: none">・ R7 年度合同予餞会について <p>5 施設内見学</p>			

ブロック名	月例会	参加人数	会場
Cブロック	6月	39人	千葉市内小学校

1 授業展開（同質またはモニター視聴）

構音指導教材の開発と活用 ～個々の課題への対応と汎用性を兼ね備えた構音指導教材の作成～

ことばの教室 3教室同時展開授業

2 協議会

①テーマについて（授業者より）

教材を作成する際は、4つの条件（・構音定着のために必要な反復練習を十分に兼ねることができると ・単語の練習も短文の練習もできるなど、いくつかの練習段階に対応していること ・一人の児童だけでなく様々な児童の指導に活用できる汎用性があること ・児童が楽しく意欲をもって取り組むことができること）が全て満たされていることを基準に開発してきた。授業の中で扱った教材が児童の実態に適した教材になっていたか、担当者の活用の仕方が適切であったかどうかを見極めてもらいたい。

②授業者より

・ことばの教室1

教材：複雑な教材、勝負がつく教材だと発音の意識が下がるため、簡単な仕組みで楽しくたくさん練習できる教材を選んだ。

・ことばの教室2

教材：置換が改善し、般化を目指しているため、急いでいるとき、考えているときでも正しく発音できることを目指した教材を選んだ。

・ことばの教室3

教材：般化を目指しているため、遊び、会話の中でも正しく発音できることを目指した教材を選んだ。

③参加者の質問、感想

- ・どの教材もネーミングのセンスがとてもよい。
- ・児童の集中力が続くように、楽しい中でもたくさん練習し続けていた。意欲的に参加していた。
- ・本児の集中力が続くよう教材や学習の順序を工夫したことが効果的だった。本児が意欲的に参加していた。
- ・発音に対しての即時評価がなされていた。ゲームの中でも自分の発音に気を付ける様子、耳を傾ける様子が見られた。
- ・ことマッチ ふせんの色を変化させ、語頭・語尾・語中を分けられている。縦横たくさん読ませたり、片付けの時も読ませたりと何気ない動作の中でたくさん発音練習ができるようにしていた。単語練習から短文まで発音練習ができていた。1つの教材を使いこなすためには、教材の意図と構音に対しての見通しができていることが大切だと感じた。
- ・ことみつけ 1つの教材で3種類のゲームが展開されていた。その中でたくさん発音練習が自然となされていた。

〈諸連絡〉

- ・千葉市ことばを育てる親の会からのお知らせ
- ・ブロック研修会のお知らせ（言語 7/2）
- ・夏の研修、吃音キャンプのお知らせ

9月例会

千葉市内小学校にて 10月の授業研究の指導案検討

ブロック名	月例会	参加人数	会場
Dブロック	6月	20人	千葉市内中学校

「県教研の発表内容の検討と教材紹介」

講師 養護教育センター 指導主事

- 1 県教研の発表内容「LD 等通級指導教室の進路学習～ICT を活用した授業・教材の共有と発展～」について
(千葉市内中学校教諭)
 - ・中学3年次に進路学習や進路決定がスムーズにできるようにするために、課題設定をした。また、キャリア教育として、小学校高学年には中学校生活の学習に取り組んだ。
 - ・教材の作成と教員間の共有を行い、教員の「専門性の向上」「若年層・経験の浅い教員のスキルアップ」を目指した。
 - ・学習の結果、進路に「不安」「心配」と答えた生徒は、前向きな気持ちをもつことができた。
 - ・課題は、進路学習はキャリア教育と自己理解と並行して行う必要がある。
 - ・在籍校の指導に合わせて、LD 通級指導教室で指導する必要がある。
- 2 県教研の発表に内容について講評 養護教育センター 指導主事より
 - ・通級で行う進路指導は、在籍校の指導内容と繋がるように配慮する必要がある。
 - ・小学校のキャリア教育で大切なことは、中学校のイメージをもてるようにすることである。
 - ・保護者と児童生徒への進路学習の情報提供時期については、保護者や児童生徒の状態によって変わる。
 - ・ICT の教材共有については、そのまま使えるものと情報を更新してから使うものとを判断すること。
- 3 教材紹介 (グループ協議)
 - ・SST スキルのカードゲームは、友達の許せないことについて知り、自分との違いに気が付く機会になる。
 - ・メイクテンは、4つの数字を使って10の答えにするゲーム。四則計算の学習に取り組むことができる。
 - ・ボディスケールは、自分の手や足など様々な長さを図ったり、手を使って身の回りの物の長さを図ったりする。この学習を通して、自分のボディイメージや距離感を身に着けることができる。
 - ・100円均一で買うことができる表情カードのゲームは、人数に関係なく遊ぶことができる。
 - ・文字隠しカードは、三角や四角などの形で切り抜いたもの。文字の上に置いて、形を想像して文字を読んだりする学習に使う。
 - ・ブロックの形作りは、教員が見本を作り、その作り方を言葉で児童に伝える。話を集中して聞く力やコミュニケーションスキルを学ぶ機会になる。
- 4 教材紹介 (グループ協議) について講評 養護教育センター 指導主事より
 - ・ボディイメージは、成長と共に変化するため、その感覚を確認するためも必要。
 - ・SST の学習は、自分とは違う意見があることを知る機会である。ぜひ小集団指導で行いたい。
 - ・指導のアプローチの仕方は、子どもの興味関心を向けさせること、子どもの苦手さに直接向き合うことなどの方法がある。
- 5 謝辞 (千葉市内中学校教諭)
- 6 その他
 - ・8月例会のお知らせ

特別支援教育部会

**令和7年度
5月例会報告**



市教研 特別支援教育部会 例会報告書

ブロック名	月例会	参加人数	会場
A1 ブロック	5月	60人	千葉市内小学校

1 推進委員より

令和7年度年間計画、実践報告と授業研究について

日時	内容	会場	講師
5/20 (火) 15:30～	前半：指導案検討 後半：ICT活用の実践、 サイトやアプリの情報交換	市内小学校	市内小学校 校長
6/17 (火) 14:00～	授業研究 体育 授業者：市内小学校教諭	市内小学校	指導主事
9/16 (火) 15:30～	市内特別支援学校見学	市内小学校	
10/21 (火) 14:00～	市内特別支援学校見学	市内小学校	
11/18 (火) 14:00～	実践報告	市内小学校	
1/20 (火) 15:30～	相談会 授業、教育課程、総合展、 げんきキャンプ等	オンライン	

2 指導案検討

体育「跳び箱運動」

○ICTの活用 ○学習カード ○場の工夫 ○実態と授業づくり を中心に検討を行った。

3 グループ協議・発表

4 講師より

5 情報交換

ICT活用の実践・サイトやアプリの情報交換

市教研 特別支援教育部会 例会報告書

ブロック名	月例会	参加人数	会場
A2ブロック	5月	43人	千葉市内小学校
<p>1 自己紹介（学校名、名前）</p> <p>2 年間計画について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業研（今年度はDグループの中から選出） ・実践報告会について <p>3 情報交換会</p> <p>○絵をかく会 題材（手形、教室のかめ、シャボン玉で絵を描く）は学年に合わせるのか、支援級独自で決めるのか。肢体不自由の児童は保護者に協力してもらい、教材を工夫している。千葉市に関連した絵について、題材を何にするのか迷っている。</p> <p>○げんきキャンプ 児童の実態に応じて、あまり詰めすぎないようにプログラムを作ると良い。雨天時のプログラムについての情報共有</p> <p>○成績 3次キャビネット、教務システムをどう使って成績を作るのか。</p> <p>○会計 個別で計画するかまとめて計画するか、どちらの方法がよいのか。価格が高騰しているため計画が難しい。</p> <p>○運動会 運動会練習中、教室に残る児童の支援体制をどうするか。校内の教室配置も大事。職員室の隣なら見てもらいやすい。</p> <p>○水泳学習 苦手な児童（顔が濡れるとパニックになる。水に入れない。）はどうしたらよいのか。→大きめのビート板を用いる。苦手意識がどこにあるのかを見極める。担任以外に何人ついてもらえるのか。</p> <p>4 情報共有（グループ発表）</p> <p>5 連絡</p> <ul style="list-style-type: none"> ・作品展について 作品搬入表は作品の裏に貼る。搬入期日が過ぎた場合は、そごうに直接持っていく。要綱を必ず確認する。 ・げんき交流会について 保護者と一緒に現地集合、現地解散が基本である。弁当は食べてもよいがスタンドに限る。 籍が通常級で特別支援学級に交流に来ている児童の参加は学校長判断になる。 			

市教研 特別支援教育部会 例会報告書

ブロック名	月例会	参加人数	会場
Bブロック	5月	39人	オンライン

- ・R7年度Bブロック活動計画（案）を提案し、会員の承認を得た。
- ・クラスルーム、会員名簿について再アナウンスを行った。

市教研 特別支援教育部会 例会報告書

ブロック名	月例会	参加人数	会場
Cブロック	5月	39人	オンライン

1 R7年度研究テーマについて

「学級で生き生きと生活できる子どもの育成を目指して」

昨年度と同様、今年度もこの研究テーマを掲げて各自具体的に研究に取り組んでいく。

主題を受け、自分なりのテーマを具体的に決め、1月の例会時に小グループで振り返りを行う。

2 R6年度研修内容振り返り

昨年度の研修内容を受け、今年度の研修では、新しい担当者も増えてきたので、上程資料の書き方や検査方法などを学習したい。昨年度実践したS Tの先生による実技指導、指導実践も直接受けたいという希望があった。

3 R7年度研修内容

年間計画についての確認をした。

4 授業者決定

6月例会 授業者：登戸小3名に決定、展開場所、授業内容、授業内容の視点の確認

11月例会 授業者の決定 院内小1名、講師は未定

5 質疑応答

今年度の状況報告書について

市教研 特別支援教育部会 例会報告書

ブロック名	月例会	参加人数	会場
Dブロック	5月	19人	オンライン

1 主題と年間計画について

- ・特別支援教育部会研究主題
特別な教育的支援を必要とする児童生徒の理解と支援・指導のあり方
- ・Dブロックの主題
子どもの特性に合った指導について
- ・年間計画

テーマ	月日	内 容	会 場	助 言 者
子どもの特性に合った指導について	6月17日(火)	県教研の発表内容の検討 教材紹介	市内中学校	養護教育センター指導主事
	9月16日(火)	指導に関する悩み相談	オンライン	なし
	10月21日(火)	市内私立高校と放課後等 デイサービスの見学	市内私立高校と 放課後等デイサービス	市内私立高校 放課後等デイサービス 職員
	11月18日(火)	市内特別支援学校の見学	市内特別支援学校	市内特別支援学校 職員
	1月20日(火)	県教研の報告 一年間の振り返り 次年度の見通し	オンライン	なし

2 自己紹介

3 諸連絡

(1) 次回について

- ・6月17日(火)14:00から市内中学校で実施。持ち物は上履きと紹介する教材。
- ・駐車場有り

(2) 予算について

(3) classroomについて

- ・オンライン研修や連絡で使用するので、各自で確認。